

《平成 13 年まき網漁業の動向》

今月は島根県のまき網漁業について、TAC 制度が施行された平成 10 年からの状況について振り返ります。

資源・経営体減少で漁獲量ダウン！

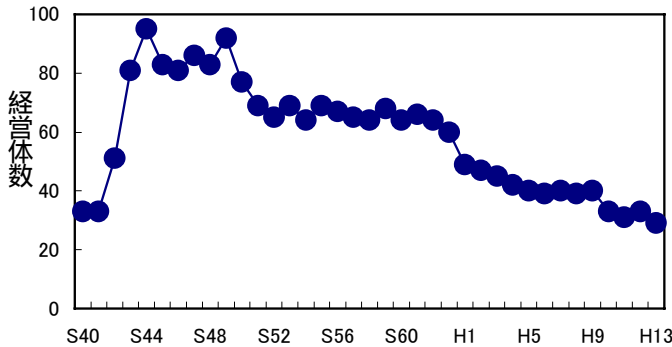


図1 島根県のまき網経営体数の変化

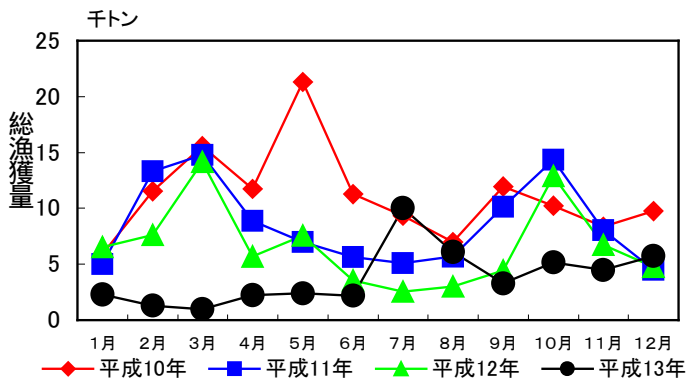


図2 島根県の中型まき網による漁獲量の変化

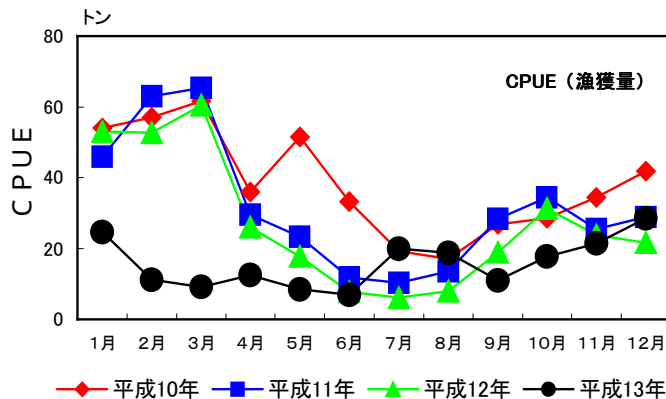


図3 島根県の中型まき網による CPUE (1日1隻当たり漁獲量) の変化

島根県のまき網漁業は漁船の規模によって、大中型まき網、中型まき網に区分されており、大中型まき網が2ヶ統、中型まき網が31ヶ統(平成13年5月1日現在)あります。主な漁業基地は、西郷、浦郷、美保関、恵曇、五十猛、浜田、益田で、アジ、サバ、イワシ類を漁獲対象としています。図1に県内のまき網経営体数の推移を示します。昭和44年の96をピークに減少傾向にあります。ただし、漁獲量のピークは昭和の終わりから平成にかけてのマイワシ漁盛んな頃で、沖合いに漁場を求めたり、1回の操業で出来るだけたくさんの量を積み込むために、漁船規模を大きくしたため、一概に漁業が衰退したとは言えません。

しかし、マイワシ漁獲量が急減し始めた平成以降は、厳しい経営状況を反映して、経営体数が減少していったものと思われます。次に、TAC 制度が開始された平成10年以降の月別の漁獲量を見比べてみます(図2)。平成13年の総漁獲量は約4万6千トン、総水揚金額は約50億円でした。漁獲量は平年(過去3カ年平均)の44%、前年の58%と大きく下回りました。水揚金額は平年の68%、前年の81%とこちらは、量ほどではないもののやはり大きく下回りました。月別の漁獲状況ですが、平成13年以外は2~6月および9~11月に漁獲の山が見られます。これは、冬から春にかけてのカタクチイワシと、春から夏および秋のマアジがそのほとんどを占めており、近年のまき網漁業がこの2魚種で支えられたことを示しています。ところが、平成13年は過去3カ年とは違い、7月に小さな山が現れただけとなりました。7月の漁獲主体はマアジの当歳魚(尾又長10cm前後)でしたが、例年に比べ早い時期に、しかも小さな魚体を漁獲しており、特異な年でした。

図3にCPUE(1日1隻当たりの漁獲量)を示します。CPUEは、漁獲量の変動が、出漁日数や稼働隻

数などの影響なのか、資源そのものの増減が影響しているのかを見るために1日1隻当たりの漁獲量で基準化しています。やはり1~5月において、平成13年は少なくなっており、時化などの影響よりもむしろ、出漁しても魚が獲れないという状況であったことがわかります。しかし、9~11月は漁獲量の落ち込みよりも少なく、魚が

いなくなったことよりも、減船などによる影響で漁獲量が減少したことを表しています。とはいえ、平成13年のCPUEは、7月8月を除き、年間を通して少ないことから、資源そのものの減少が大きく影響していることは間違いありません。

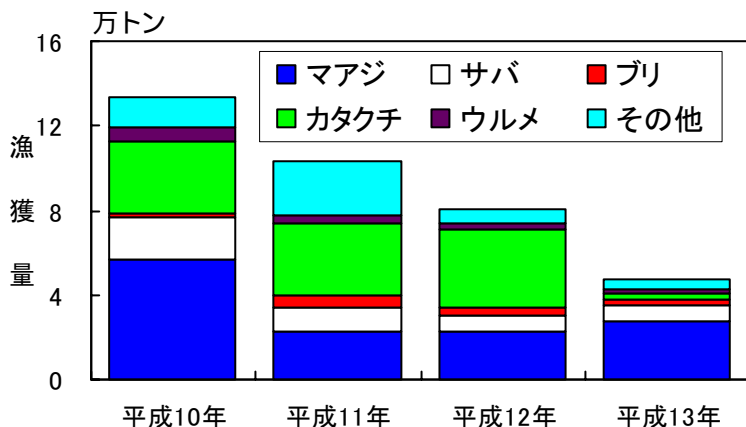


図4 魚種別漁獲量

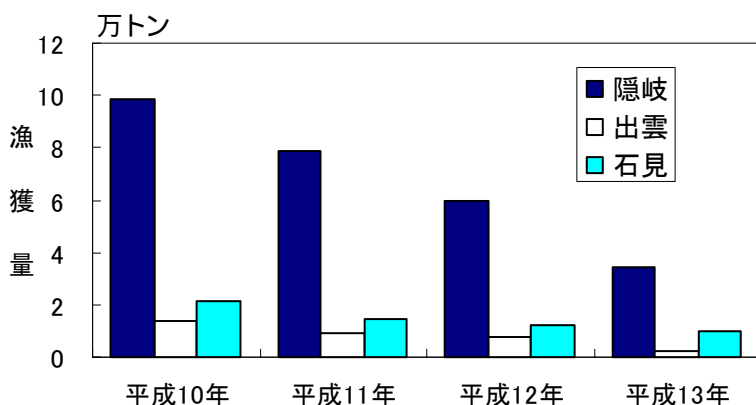


図5 海域別漁獲量

減少傾向がそのまま隠岐地区の減少傾向と合致していることがわかります。他の地区では減少傾向は緩やかですが、平成13年に山陰地区で大きく減少しています。石見地区はマアジの漁獲が比較的安定しているために他の地区よりも減少傾向は緩やかです。

今後のまき網漁業

今後のまき網漁業ですが、平成13年に山陰地区を中心に減船が実施され、漁獲状況が悪ければ今後も実施される可能性があり、全体の漁獲量としては、減少すると思われます。一方、主要魚種の動向について予測をしてみます。マアジですが、昨年7月に当歳魚の豊漁がありました。その後の漁獲量は伸び悩み、12月になって、平年並みになったものの、年間を通して低調に推移したと言えます。試験場では5月下旬から7月上旬にかけて実施した中層トロールと計量魚探による魚群調査によって、マアジ当歳魚の群れが島根県の沿岸海域にたくさんいることを確認していました。そして、その後の調査や漁業情報から、潜在的な資源量は平年より高いものと推測しています。この当歳魚が今年の春に1歳魚となって漁獲されれば、好漁が期待できますが、秋の当歳魚の漁獲量が翌年の春の1歳魚の漁獲量に必ずしも反映しないため、春漁を予測することは非常に困難です。しかし、今のところ最も期待できる魚種はマアジであると考えています。昨年大きく減少したカタクチイワシですが、例年、山陰沖では2月～3月にかけて活発な漁があるのですが、2月14日現在カタクチイワシはほとんど漁獲されていません。東シナ海から日本海にかけての対馬暖流域全体で不漁であることから、今漁期もあまり期待できません。マサバは平成13年の発生群が近年では比較的良いことから、東シナ海から日本海西部海域にかけて少ないながらも漁があります。今後は、小型のものを中心に3月から4月にかけて、ややまとまった漁が期待されます。その他の魚種は資源水準が低く、まとまった漁獲は見込めそうにありません。

魚種別漁獲量

図4に魚種別の漁獲量を示しました。平成13年の上位にランキングされた主要魚種を表示しています。総漁獲量は平成10年から直線的に減少しており、平成11年はマアジとマサバ、平成12年はその他の魚種(主にムロアジ類)、平成13年はカタクチイワシと、毎年何らかの魚種が減少し、逆に大きく増加する魚種が出現しなかったことが漁獲量の直線的な減少傾向を招いたことがわかります。特にカタクチイワシは、マアジとともにここ数年のまき網漁業を支えてきた魚種であったため平成12～13年にかけての減少は非常に大きな打撃を与えました。

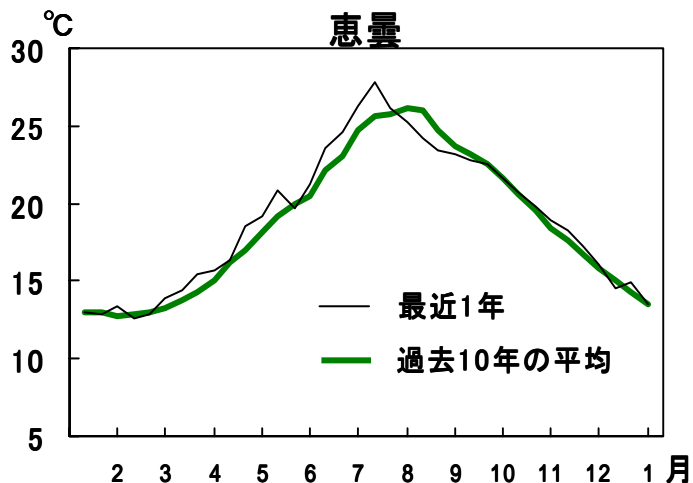
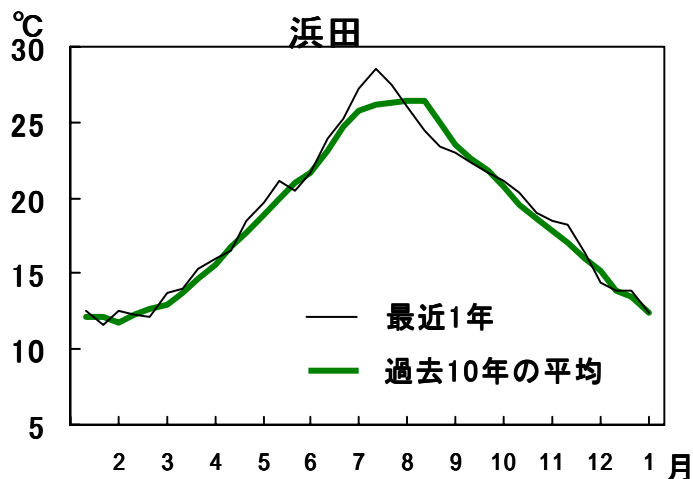
隠岐海域大きく減少!

図5に海域別の漁獲量を示します。県内を隠岐地区、山陰地区、石見地区の3つに区分して4年間の漁獲状況を示しました。隠岐地区は西郷、浦郷、山陰地区は美保関、恵曇、石見地区は、五十猛、浜田、益田を含んでいます。量的にもっとも多い隠岐地区が、他の地区に比べ漁獲量の減少傾向が顕著になっています。図4に示す魚種別の

《 1月の海況 》

1月	月平均	平年差	評価
浜田	13.4	+0.1	平年並み
恵曇	14.3	+0.1	平年並み

1月の月平均水温は12月に比べ浜田、恵曇とも約3.0℃下降しました。浜田、恵曇とも「平年並み」の水温経過となりました。



島根・鳥取県の各水産試験場が2月上旬に行った海洋観測によると、沿岸から隠岐諸島にかけての表層から底層は、水温12℃以上の暖かい海水で覆われています。

冷水域は隠岐諸島の北西約70マイルおよび隠岐諸島の西方約40マイルの中層および底層に形成されており、その周辺では「やや低め～平年並み」の水温であるものの、そのほかは全般的に「やや高め～かなり高め」となっています。

《 1月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量はマサバ・マアジ主体に471トン、水揚金額は4,831万円でした。1統当りの漁獲量は118トンで前年の86%、平年の27%でした。水揚金額は1,200万円で、サワラ・ブリなどがまとまって漁獲されたため、こちらは前年を上回っています。恵曇港では、1ヶ統のみの操業でマサバ・ムロアジ類主体に総漁獲量42トン（前年比：68%）、水揚金額は192万円（前年比：59%）でした。浦郷港ではマサバ、スルメイカ主体に総漁獲量260トン、水揚金額は2,070万円でした。1統当りの漁獲量は65トン（前年比：63%）、水揚金額は518万円（前年比：48%）となりました。

【イカ釣り漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣り船（5トン以上）によるイカ類の漁獲量は944トンで、スルメイカが中心でした。昨年末からの好調を維持し、平年の10倍、前年の約6倍と大豊漁となり、昨年1年間の浜田港のイカ類総水揚げ量（911トン）を上回りました。魚体は、20入り（外套長25cm）が主体となっています。一方、西郷のイカ釣り船（5トン以上）では、スルメイカを中心に27トンの漁獲量で、こちらも平年並みで前年をやや下回りました。スルメイカ南下群の漁場が島根県西部海域を中心に形成されたため、浜田港での活発な水揚げとなったようです。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の沖底の漁獲量は222トン、水揚金額は9,321万円、1統当りの漁獲量は37.0トン（前年比：74%、平年比：78%）、水揚金額は1,554万円（前年比：55%、平年比：71%）でした。漁の主体はソウハチ（前年比：67%）、ニギス（前年比：118%）

となっています。

恵曇港の沖底の漁獲量は100トン、水揚げ金額は6,399万円、1統当りの漁獲量は25.0トン(前年比:67%、平年比:69%)、水揚げ金額は1,600万円(前年比:67%、平年比:77%)でした。漁の主体はソウハチ(前年比:66%)、アカガレイ(前年比:34%)となっています。

【小型底びき網漁業】

和江・大田市両漁協とも、時化の日が多かったにも関わらず出漁日数は前年に比べ13~20%増加しましたが、1航海当たりの量、金額を見ると和江漁協では前年をわずかに、大田市漁協では前年を14~26%下回っています。

この時期から漁獲が増加するソウハチは今のところ低調に推移しており、前年の4割程度に留まっています。この他、アナゴ類、ヤリイカも低調に推移しています。一方、チダイ、カワハギ類はまとまった漁が見られ、チダイは両漁協とも前年の50倍、カワハギ類は和江漁協では前年の2.3倍、大田市漁協では前年の4.9倍の水揚げがありました。

【定置網漁業】

隠岐地区では本格的なスルメイカ漁の時期を迎えています。量的には前年、平年を大きく上回っています。隠岐地区での漁獲はほとんどが、浦郷地区でのスルメイカで占められています。東部、西部地区ではスズキ・ブリが漁獲の主体で特にスズキは前年、平年に比べ3~5倍程度の漁獲となっています。東部の美保関地区ではカタクチイワシがまとめて漁獲されており、今後の漁に期待したいところです。県全体では、前年、平年の7割程度の漁獲量となりました。

【釣・縄】

時化の日が続き操業日数が平年の70%程度となり、その影響で沿岸の釣・縄は漁獲量、金額ともに平年を下回り低調に推移しました。県西部ではアマダイ、ブリ、ヒラマサを中心に、漁獲量は平年をやや下回りましたが金額はほぼ平年並みでした。県東部ではブリ、ヤリイカが主体で漁獲量、金額ともに平年を約30%下回りました。隠岐ではメダイ、キダイ、スルメイカを中心に漁獲量は平年並み金額は平年をやや下回りました。

漁獲統計

平成 14年1月1日 ~ 31日

漁業種類	水揚げ港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	17	マサバ・マアジ	27.7ト	471ト
	恵曇	2	マサバ・ムロアジ類	21.1ト	42ト
	浦郷	14	マサバ・スルメイカ	18.6ト	260ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	446	スルメイカ	2,117kg	944ト
	西郷	44	スルメイカ	618kg	27ト
沖底	浜田	34	ソウハチ・ニギス	6.5ト	222ト
	恵曇	24	ソウハチ・アカガレイ	4.2ト	100ト
小底	和江	256	チダイ・アンコウ・ソウハチ	543kg	139ト
	大田市	154	ソウハチ・ニギス・チダイ	404kg	62ト
定置網	浜田	8	スズキ・ブリ	431kg	3.4ト
	恵曇	0		0kg	0ト
	浦郷	28	スルメイカ	629kg	17.6ト
釣・縄	浜田	86	アマダイ・ヒラマサ	61.6kg	5.3ト
	五十猛	37	ブリ・カサゴ類・アマダイ	118.9kg	4.4ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。